



母校

元小

学校だより
令和3年10月
川口市立元郷小学校
児童数：528名

本の世界へようこそ

校長 吉田 栄

例年よりもずっと涼しかった9月が終わり、より高く澄んだ青空に、夜空に冴える月に、そしてキンモクセイの甘く爽やかな香りやコスモスの可憐な姿に、早くも秋の気配を感じるようになりました。朝晩に心地よい秋風が吹き抜ける季節です。10月「神無月」。令和3年度も折り返し点を迎えました。

新型コロナウイルス感染症の感染爆発から政府による緊急事態宣言がさらに延長され、学校として実施した9月2日から10日までの「分散授業」、続く9月13日から30日までの「分散登校」では、保護者の皆様、地域の皆様に多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。児童の健康と安全を守るため、最大限の努力を重ねてまいり所存です。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

「灯火親しむ」秋の到来。本校では10月1日から29日までの期間を、「読書月間」と設定させていただいております。この読書月間では、児童は自分の読んだ本について記載し、各学級にある木の枝に張り付けていく「読書の木」や、各教員による読み聞かせ「お話パズール」に取り組みます。その他、図書委員会からの「おすすめの本」の紹介も校内に掲示されます。また、本年度から低・中・高学年別の「モチちゃん文庫の50冊」への取組も始まり、学校を挙げて児童の読書活動のさらなる充実を目指しております。

児童の読書活動には、自分の好きな本を読むだけにとどまらず、情報を主体的に読み解き、自己の考えの形成に生かすことの必要性が指摘されています。能動的読書（インタラクティブ・リーディング）です。さらに、専門家からは特に小学校低学年の段階では語彙の量と質がその後の学力に影響を与えるといった意見や、幼児期から学童期にかけての読書がその後の社会的・職業的な自立に向けた学びにも影響するといった意見もあり、こうしたことからこの時期の児童における読書活動の重要性を痛切に感じます。

さらに近年、スマートフォン等の普及により、情報通信技術（ICT）を利用する時間が増加傾向にあることが指摘されています。必要な情報を素早く入手することが容易になる一方、視覚的な情報と言語との結び付きが希薄となり、情報のもつ意味や構造、内容を読解・吟味する機会は減少しているそうです。この傾向は、全国的には学年が進むにつれて強くなることが示されています。

こうして読書について書いていると、私の小学校時代の担任の先生のことを思い出します。私の学級では、昼休みになると、全員席に着いて手を後ろに組み、目を閉じます。担任の先生が読み聞かせてくれるのは、寺村輝夫氏の長編童話「ぼくは王さま」シリーズの「王さまたんけんたい」です。毎日少しずつ読み進めてくださったこのお話は、玉子焼きが大好きな王様が繰り広げるとても面白いお話で、続きが知りたくて、明日まで待ちきれない思いをしたことを今でも覚えています。1冊全て読み終えると、次の日からは王さまシリーズにある別の本の読み聞かせが始まります。次の本は、同じ玉子焼きが大好きな王様が主人公の「ぼくは王さま」でした。次の本、また次の本と、当時9歳から10歳だった私にとって、とても楽しい時間が続きます…。

本のおもしろさに魅了された私は、もっと読みたいという一心で「シートン動物記」を読破。「トム・ソーヤの冒険」「十五少年漂流記」にも自然と手を伸ばしました。その頃、伝記「野口英世」も読み始め、その生き方に深く感銘を受けました。本屋さんや図書館に行くことがとても好きになり、私にとっての本の世界はますます広がっていくばかりです。

私に読書の楽しさを教えてくださった恩師。少年時代の忘れることのできない大切な思い出です。大人へと成長し、同じ教師の道を歩んでいます。今度は私が児童に本の楽しさを伝える番です。

児童の日々の学校生活の中、「いつも手元に1冊の本を」を合言葉に、「読書の秋」を児童一人一人が満喫できるよう、この読書月間がすばらしい本の世界への道案内となれば幸いに存じます。